



よい



はならび

さかした歯科医院

641-8888 第13号 平成25年7月1日発行

院長コラム

医科と歯科が大きな医療現場となっている。両者には、さらに様々な科が併設されているが、いざ個人が病気になった場合、自分はどこに行ったらよいのかわからないことも多い。

遠藤周作さんという作家がかつて医科と歯科の狭間という問題を提起したことがある。結構この狭間は大きくこの間に苦しむ人はおおいようである。

いまから、20年も前にさかのぼるが、父親が50肩の痛みで睡眠障害をおこし、一日1時間も眠れない日が続いた事があった。大学病院に行き頸腕症候群という診断をもらったが、整形外科での処置は功を奏さず苦しんだ。

噛み合わせの治療との出会いは、そんなまっただ中、まさか噛み合わせが原因だなんて思ってもみなかった。治療したその日父はしばらくぶりの痛みのない眠りにつけたのだった。

噛み合わせと体の健康は確実に連携があり、両者独立したものではない。特に口は、動物の進化を考えたとき、最も歴史の古い器官と言える。

口と脳との関係は驚く関連があり、個体の健康を支配しているのだ。

人の姿勢をみると様々な問題がみえてくる。噛みグセのある人、首が曲がっている人、ねじれている人、目の大きさが違う、耳が聞こえない、手が拳がらない、膝が痛い、腰が痛い、肩が痛い、頭痛、おそろしい数の症状。

早くこの医科と歯科の狭間をうめないと。ふと、幼い頃の祖母の声が聞こえてきた。『よく噛んで食べなさい。好一』

清涼飲料水の飲み過ぎは 歯に良くない？

歯の表面は硬いエナメル質で覆われていますが、このエナメル質は酸に弱く、pH5.5以下の酸性の液体で溶け出してしまいます。

例えば、多くの清涼飲料水の中でもコーラは酸性が強くpH2.2。

スポーツドリンクはpH3.5、ビールはpH4.3、そして日本酒はpH4.4の値です。それに対し、緑茶はpH6.2、牛乳はpH6.8と中性に近く、

ミネラルウォーターもほぼ中性で、エナメル質を溶かしません



さかした歯科医院のホームページ

<http://www.41888.jp/>

ブログも随時更新中

